

綿貫敏雄先生の退任に寄せて

保健体育コース 金子敬二

綿貫敏雄先生は、1969年4月に本学に着任され、以来48年の長きにわたり本学の教育にご尽力なされました。途中、1974年にはサウジアラビアに拠点を置くアラビア石油株式会社に出向、社員の子どもの教育を行うカフジ明星小学校に赴任され、2年4ヶ月を過ごされています。その後の学内における先生のご活躍は、保健体育部会というまでもなく、2001年4月からは一般教育委員会委員長の要職を5年間務められました。

スポーツ活動においても輝かしい競技歴をお持ちです。先生は高校、大学とハンドボール選手（ゴールキーパー）として活躍されました。明星高校3年の時にはインターハイで全国制覇を達成。現役引退後は日本ハンドボール協会の役員に招かれ、日本代表役員として世界大会にも帯同されるなど、日本のハンドボール界にも多大な貢献をされています。

学術面に目を向けると、先生の専門領域である体育社会学において、現代の子ども達を取り巻く社会環境と「遊び」の関係などの研究をされてきました。また、骨密度測定器や体組成測定装置（筋肉量や脂肪量を測定する装置）などの最新機器を積極的に授業に導入、学生に運動と健康・体力の関係について考えさせる授業を果敢に展開されました。

先生は温厚で物腰穏やかなお人柄、そしてお洒落でダンディー！これは先生を知るみんなが一致して認めるところでしょう。他方、保体部会などでは厳しい一面も覗かせました。

先生は物事を真正面から見つめ、真っ直ぐに捉えられる方です。穏やかな口調で理路整然と意見を述べられ、言うべき事はどんなに言いにくい事でも、逃げたり、いい加減にしない。一体何が大事で、何を忘れてはいけないのか、常に我々に問いかけ、お導き下さいました。「本当にそれでいいの？」これが先生の口癖。

こうした先生の一貫した姿勢は保体科教員のみならず、多くの教員の共感呼び、ひいては一般教育委員長への推挙に結びついたと考えます。また、2010年教育学部開設に際し、保体科教員は全員教育学部に移籍。一般教育委員会に保体科教員が一人もいなくなる事態を憂い、先生は最後まで一般教育に残る努力をなされた。いかにも先生らしいエピソードです。

綿貫先生、私たちは先生が示されたお姿を脳裏に焼き付け、今後とも明星大学の教育に邁進していく所存です。長い間、本当にありがとうございました。



綿貫先生お手製の燻製でパーティー
(笹原先生宅で、2015年夏)